

「^{しんけせいすい}身家盛衰循環図系」から学ぶ — 安田善次郎翁

「人生は克己の二文字である」

株式会社 山西 ^{あすなる会顧問} 西垣 洋 一
代表取締役社長

「身家盛衰循環図系」 — 人間の陥りやすい落とし穴と進むべき道を説く (右参照)

安田善次郎翁は、現在の国内最大の金融グループである芙蓉グループへと繋がる安田財閥の創始者です。その翁が 75 歳の時に自らの失敗体験と銀行家として融資や企業再建を通してきた数多くの経営者の栄枯盛衰から、「おごるなかれ」と安田家の戒めとして遺したものが「身家盛衰循環図系」です。この人生模様の縮図とも言える教えは、おごって私欲をむさぼりすぎて再び困窮に落ちても (奈落への道)、くじけずに発憤すれば再び上昇の循環に乗ることができる (復活の道) と説いています。

【 身家盛衰循環図系とは 】

人生は困り苦しむ「困窮」から始まる。そこでくじければ先に進めず「挫折」となる。反対に何くそとふるい立ち「発憤」、仕事に邁進すれば「勤儉」、一定の財が手に入る「富足」に達すると説く。
ここで分かれ道がやってきて、一定の富で「足るを知る」ことによって、人格や品性を高めていく道を選ぶ人がいる。「修養」である。そうした行いを続ければ、やがて真理を悟る「喻義」に達する。義を悟れば清らかな境地「清娛」に至り、心身が安らかに「安楽」に暮らせると説く。
ところが、財を築いたことにおごりたかぶる人がいる「傲奢」である。さらなる利益をむさぼる「喻利」、それは“人の道”に外れるため徳ある人に見破られ、うまくいかずに苦悩する「煩悶」に陥る。そして振り出しの、もがき苦しむ「困窮」に戻ってしまう。

安田善次郎翁の人生訓

翁の人生は、「事をなすにまず順序を定むべし」の金言を大切に、その順序を1歩1歩と踏み固めて着々と進めることを旨とし、「克己」の精神でその生涯を貫きます。晩年「克己堅忍 (こっきけんじん) — 自分に打ち勝ち耐え忍ぶ —」の「意志力」を修養した1点においては、誰にも負けないと語り、「人生は克己の二文字である」「勤儉、克己、一をもってこれを貫く」、と述べています。

又、父の教えでもある「陰徳」を信奉し、銀行は“縁の下”の力持ちであることを黙々と実践しました。世間から大変な誤解を受けても、生前の本人はそれを一向に意に介した様子もなく「陰徳」を積み、一生涯その姿勢を貫きました。

現在は、自分さえよければ何でもありといった風潮が強く見受けられます。しかしながら以前紹介させて頂いた二ノ宮尊徳の「一元融合観」の中での「分度」を持つ「自利・利他」の精神が求められているのではないのでしょうか。「おごり」を諫め、「陰徳」を積む善次郎翁の生き様は私達に今をどう生きるかについて多くを示唆しています。そして一度志を定めたなら、何が何でもやり遂げるという“意志力”を持ち、“実行”を以ってそれを示すことが大切だと教えています。

2020年に向けての業界の大変革期、その後の新設住宅着工数の減少という難局を迎える我々にも困窮の時が訪れるかもしれません。しかしながらそこで挫折 (くじける) することなく、克己の精神を以って発憤 (ふるい立つ) し乗り越えていかなければなりません。ご紹介しました安田善次郎翁の教えが、皆様のお役に立てれば幸いです。

— 「身家盛衰循環図系」 (安田家遺訓) —

人間の陥りやすい落とし穴と進むべき道を二文字の言葉で表し、それを分かりやすく線で結んで、子々孫々までの戒めとしたもの。

「人生は克己の二文字である」「おごり」は奈落への道と知り、「克己堅忍」の意志力を以って発奮・勤儉を為すべし。

